

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		中条小		学校						
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）						
							口指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	口指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策		
3	○「子ども主体の学 び」～特別支援教育 の考えを生かした個 別最適な学びの推進 ～	★		主体的に学ぶ児童を 育成するために、学 びを充実させる授業 の3Kを踏まえた授 業づくりを行う。 ・教材研究 ・関係性 ・環境づくり	①カリキュラムマ ネージメントと基礎 力の向上 ・育成したい資質・ 能力を基に教科横断 的な視点で相互の関 連付けや手立てを考 える。 ・家庭学習、読書活 動、メディア、朝食	○児童アンケートで 国語・算数の学習が 好きと答える児童を 100%にする。	口児童アンケート肯 定的評価は国語7 7％算数80％。6 月算数74％と比べ 改善傾向。また算数 の学習内容がよく分 かると回答した児童 が92％であり、主 体的な学びは継続す ることができてい る。	4	3	○「数と計算」領域 に焦点を当てた基礎 学力の向上（中条っ 子の算数に集中）を 継続して行う。 OPDCAサイクルを 意識した漢字学習 （マルチの力を活用 した）に取り組む。 ○各学級で作成した 授業ポートフォリオ に基づいて授業を行 い、形成評価等を分 析しながら授業改善 を図る。 ○全学年単元内自由 進度学習に取り組み （年間1単元以 上）、自ら学びを調 整しながら学習に取 り組ませる。 ○引き続き学びを充 実させる授業の3K を踏まえた授業づく りを行う。	口児童アンケート肯定的 評価は国語82％算数 80％。両教科とも、目 標指標100％には届かな かった。しかし、学習内 容がよく分かると回答し た児童が90％に表れる ように、授業改善を通じ て理解度の向上と伴って 意欲の向上が確実に見ら れる。課題は、あと10％ の児童である。	4	3	3	○個別最適な学びと 協働的な学びの一体 的な充実を日々の授 業改善を通して校内 全体で目指してい く。 ○引き続き学びを充 実させる授業の3K を踏まえた授業づく りを行う。 ○年間を通してテス トやアンケート等 における児童の実態を 評価分析・交流し、 児童理解に基づいた 個別の支援を校内全 体でチームとして行 う。 ○算数「数と計算」 領域に焦点を当てた 基礎学力の向上（中 条っ子の算数に集 中）を継続して行 う。 ○「家庭学習時間が 少なくゲーム等の時 間が多い」という課 題を最優先の改善目 標とし、その意義を 啓発するとともに家 庭と連携して取組を 進める。		
学ぶことが嫌いで学力が高い児童は稀である。本 校の実態から、「学びの調整」をし始めた児童の なかには、意欲的に主体的に学びに向かい始め ているが、結果はまだまだである児童がみられる。 「好きこそ物の上手なれ」のことわざ通り、まずは 「好き」（学びたい）と思えるよう取り組んでいき たい。また「学びのレディネス」としてマイナス要因が 児童の背景にあるならばその改善に努める必要 がある。							○学力の伸びを分 析、検証していく場 の設定 ・年間を通して ・学力調査等正答率 40％以下の児童の 割合	口正答率40％以下 の児童の割合 4月実施の全国学力 テスト6年国語1 3％算数50％福山 市学力テスト5年国 語43％算数36％ 4年国語7％算数 7％。厳しい実態は 続くが4年において 成果が見られる。年 間を通して個の実態 を交流し個別最適な 学びと協働的な学び の一体的な充実を研 修等で図ってきてい る。	4	3		口正答率40％以下の児童 12月学力テスト（全 校） 6年 国語13→19％ 算数50→31％ 5年 国語43→7％ 算数36→14％ 4年 国語7→8％ 算数7→15％ 全校国語11％算数16％ 個別最適な学びを推進し た結果改善傾向である。 特に5年において 達成率 4月 12月 国語 36(69) 57(56) 算数 43(65) 57(54) この全国平均値を上回る 結果は今後の可能性を示 す大きな成果である。 ＊（ ）内は全国平均値	4	3	3		
児童の「学びの調整」の結果である学力実態を、明らかにし児童と共有していく必要がある。結 果を分析、検証する中でその改善に向けてさらに何が必要なのかを共通認識としたい。そして児 童一人一人の「学びたい」「伸びたい」に応える授業づくりを考えていくことは当然である。																	
学力同様、児童の運動意欲の向上を図ることで 体力の向上をめざし、生涯体育に親しむ基礎を 築きたい。そして児童の「できるようにになりたい」 「記録を伸ばしたい」そして「仲間と運動を通して 楽しみたい」に応える授業づくりは上記同様であ る。体や心の健康があってこそ「知的欲求・自己 実現」を求めていくことから、学力との関係の面 からも大切となる。							③児童の運動意欲・ 体力の向上 ・ゲーム的要素を含 んだ運動を体育やそ 他の場面で設定 し、楽しく運動でき る機会を増やす。 ・児童の運動環境 （運動器具等）の整 備や実技研修及び情 報交流を充実させ る。	児童アンケートで運 動をすることが好き と答える児童を 100%にする。	口児童アンケート肯 定的評価は88％。 体育の授業を工夫し たり、運動環境の整 備を職員が意識的に 進めたりすることが できた。 口遊びやゲーム的 要素を取り入れて、運 動することへの抵抗 感をなくす必要があ る。	3	3	○運動の目的を明確 にし、自分の目標 （記録）を伸ばした り、ゲーム感覚で運 動を楽しんだりでき るよう、体育の授業 づくりを工夫した り、休憩時間等を活 用した運動遊びを提 案したりする。	口児童アンケート肯定的 評価は92％。 ◎職員で授業づくりに ついて交流し、運動環境 の整備や授業の導入の工夫 などを行うことができ た。運動の目的を明確に し、ゲーム感覚で楽し みながら運動することへの 抵抗感を減らす工夫をす ること、体力づくりに おいても成果がみられ る。	4	4	4	○体力の向上をめざ すためには、運動意 欲の向上が欠かせな い。運動することを 楽しめるよう、運動 環境の整備をより一 層進めたり、授業づ くりのための研修を 取り入れたりする必 要がある。 ○背景となる体や心 の健康のため「メ ディア教育」の充実 も求められる。

3	○望ましい集団づくりの実現 ～自分を磨き、ともに学び支え合う児童の育成～			児童同士、地域や専門家等との関わりを通して学び合い、自己及び集団のよりよいあり方について考える児童の育ちを支援する。 ・自治活動	①リフレクションの更なる充実 ・リフレクションを活用して、自分の成長や良さを感ずることが出来る場面を設定する。 ・他者からの肯定的評価を伝え合う場を設定し、自他ともに認め合える学級・学校づくりを進める。	○児童アンケートで自分のことが好きと答える児童を100%にする。	○児童アンケート肯定的評価は85%。 リフレクションを活用して、自分について振り返る場面を設定することができた。 ○体育発表会練習中に他学年へのメッセージを掲示したり、通信などでリフレクションを共有したりする機会を設けた。友達の良いことを認めて称えたりするだけでなく、自分の良さを素直に受け止めることができる場を設定したり、リフレクションを活用する必要がある。課題となる2割の児童の背景を分析・共有し、学校全体でその改善に向けて取り組むことが求められる。	3	3	○児童自身が自分の得意不得意を理解するだけでなく、自分の良さを自分で発見したり、他者から気付かされたりする場を多く設定し、自信をもたせる機会を設定する。	○児童アンケート肯定的評価は80%。 ○学習発表会練習中に他学年へのメッセージを掲示したり、通信などでリフレクションを共有したりする機会を設けた。友達の良いことを認めて称えたりするだけでなく、自分の良さを素直に受け止めることができる場を設定したり、リフレクションを活用する必要がある。課題となる2割の児童の背景を分析・共有し、学校全体でその改善に向けて取り組むことが求められる。	3	3	3	○自分の課題を明確にし、次への目標を立てて取り組める児童が増えた。しかし、自信をもって自分を好きだと言えない児童もいる。その背景を明らかにし、自分の課題だけでなく、成果に対してもしっかりと目を向け、成長した喜びを味わい、自信をもって生活できる場を授業や学校行事、集団生活の中で設定していく。 ○集団における児童の「安心・安全」を保障し、自己実現に向かうとする環境を充実させる。
集団における児童の「安心・安全」が、自己実現に向かうとする必要条件である。お互いの良さを認め合い、共に学び伸びようとする集団づくりを進めていきたい。そのなかで「自分にはこんな良いところがあり、こんな可能性がある」そして「それを応援したり、支えてくれているのがクラスの仲間である」と思えるようにしていきたい。一人一人が自信をもって自分のことを「好き」と答えられる中条小学校にしていきたい。															
	○信頼される学校づくり ～学ぶ実感・やりがいの実感～		継続	教職員のやりがい・充実感の向上を図る	①子どもと向き合う時間の確保 ・校務補助員への業務依頼 ・タイムマネジメントを意識した業務遂行 ・チームとして関わりあえる体制づくり	○教職員アンケートでこの仕事にやりがいがあると答える教職員を100%にする。	○教職員アンケートの結果、90%がやりがいを感じていると答えた。	3	3	○子どもと向き合う時間の確保に努め、子どもたちが「わかった」「できた」と思える授業づくりを行うとともに、自分の職能向上を感じられる必要がある。そのため、積極的な生徒指導・学級づくり・OJT等を継続して進める。 ○児童の言動をよく見て、適切に指導を行う。また、児童からの訴えを受け止め、即対応を行う。保護者連携も適切に行い、誠実に対応する。	○教職員アンケートの結果、100%がやりがいを感じていると回答した。 ○保護者アンケートの結果、中条小学校の教育に満足していると回答した保護者は、98%だった。児童が楽しく学校に通っているとの回答は100%となった。 ○教職員のやりがい・充実感の向上を図りつつ、信頼される学校づくりは、着実に進んできた。一方、回答していない保護者がいることから、そこを今後も充実が求められる。	4	4	4	○職員がお互いに連携、協働しながら教育活動に当たり、児童が自分の成長を実感しながら日々生活できるよう、今後も引き続き取り組む。また、日課の見直しをし、授業準備等の時間を確保する。 ○児童一人一人と細やかな関係を築くとともに、積極的な生徒指導、細やかな保護者連携を今後も継続していく。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。